

タイトル:平成 27(2015)年度 研究セミナー(第 16 回)

日程:平成 27 年 12 月 18 日(金)~20 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「近代日本社会におけるベリーダンスの受容」

李 旒 (名古屋大学大学院)

私の研究テーマは、日本社会におけるベリーダンスです。比較的先行研究の少ないテーマで、中東・イスラームとの関わりがあるかないかのような微妙な感じでした。最初、このセミナーは、中東・イスラームという枠内、政治学、経済学、人類学、法学で占められている先入観があって、専門領域がはっきりしない私が、研究発表を申込みできるかどうか、ずっと悩んでいました。『中東☆イスラーム教育セミナー』に 2 回参加した後、ようやく勇気を出して、今回の研究セミナーに参加することを決めました。実は、非常に幅広く、多様な研究テーマを共有できるセミナーだと実感しています。

研究分野がバラバラで、同じ問題意識を共有しがたくて、わかりにくい面があるかもしれませんが、逆に良い勉強の場にもなると思います。それに、自分の研究テーマを違う分野の方々に説明して、理解してもらえる場もあります。さらに、今回の研究セミナーでは、私の研究テーマに詳しい先生を招聘していただき、より専門的に突っ込んだ質疑と指摘をいただき、非常に勉強になったうえ、研究の方向を考えるための重要な指針をも与えていただきました。これまで十分考慮に入れていなかった自分の研究の問題点と改めて正面から向き合って、博士論文の執筆に真剣に取り組まなくてはならないと思うようになりました。

1 時間発表、1 時間質疑応答というセミナーの流れは、他の学会やセミナーでは滅多にないことで、大変なことです。研究者を目指すものにとっては、スキルや能力を向上させる貴重なチャンスです。もちろん、専門家の先生方の前で、合わせて 2 時間発表をするので、完璧な発表を求めず、ボロボロに潰される覚悟を持つ方が良いと思います。確かに先生方のコメントは、鋭いです。しかし、それは、発表者の発表に対する批判ではなく、未熟な発表者の研究をレベルアップさせることをねらったことです。学会や他の場ではあまりない体験なので、ボロボロに潰されても、得るところが大きいと思います。

最後になりますが、何よりもこの研究セミナーの先生方、発表者の皆様、特に私の発表で司会を担当していただいた高松洋一先生、私の研究テーマにいろいろ助言していただいた鳥山純子先生、そして FSC 事務局の千葉様には大変お世話になり、心から感謝いたします。これからは、このセミナーで頂いたたくさんの重要なご指摘を大事にして、徹底的に自分の研究に生かせるように頑張ります。